

2022パズル道場全国大会

優勝者の感想文



目白算数パズル道場 亀山亜野乃（一般）

「やっとこの時がきたか！」先生から結果を教えて頂いたときは得も言われぬ達成感がありました。満点で優勝という完璧な結果を残せて本当に良かったという気持ちでした。パズル道場を小1から始めて15年、10回目の全国大会にして初めての優勝。長かった...今まで続けてきたことは無駄じゃなかったと証明できた気がしました。

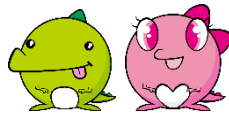
今回の全国大会に向けての練習中、新たな発見がいくつもありました。自分の苦手種目はもちろん、得意種目もどうしたらもっと速くできるようになるか研究しました。トライアルの問題よりも制限時間が短くなると聞いていたのでいかに速くできるようになるか、そして上位はいかに正確に解けるかの勝負だと思ったので練習のときから緊張感を持って行いました。自分が今まで使っていた解法をいったん忘れて違う考え方をするようになった種目もありました。

本番当日、山下先生の講義を聞いている時から徐々に緊張が高まってきました。しかし、手は震えながらも頭はよく働いていました。これは踏んできた場数かもしれません。解いている最中は絶対に満点を取るという気迫でとにかく食らいつきました。時間を気にしすぎて焦りすぎたときもありましたがそれでもなんとか解いてやろうと必死でした。必死にやっていたらナンプレの新たな解法を思いついたりもしました。こんなこともあるんですね(笑)

私が今回の全国大会で一番感じたのは自分はまだまだ成長できるということでした。もっと速い解き方があるのではないかと試行錯誤しながらの練習はとても楽しかったです。追い詰められたときに開けた道もありました。これだけ長く続けていてもまだ学ぶことがあります。山下先生の講義にありました暗黙知を習得している種目は見たら答えがわかるくらいのスピードでできますし、そうではないものはもっと練習して暗黙知を習得したいと思いました。

来年は全国の猛者が一同に会して大会が行われる予定だと聞きました。今年よりも成長した自分を見せたいですし、苦手な立体四目でも活躍できるようにまた一年頑張ります。

ジュニアの部 優勝



算数パズル教室てらこや 野見山祐吏（小6）

「野見山祐吏君が、全国大会ジュニアの部で一位をとりました。」こう言われたとき、僕は飛び上がりたくなるほど嬉しかったです。

僕は、小学三年生のときに東京での全国大会にいったことがあります。そのときは80位程度で悔しい思いをしました。小学四年生の時のオンラインでの全国大会でも40位程度で、同じく悔しい思いをしました。だから、勝てなくて、できなくて、泣いたときもあったけれど、努力を積み重ねてきました。

そして、小学六年生になって、「今年の全国大会は絶対に出る！」と決めていたのですが、全国大会の日が、本命ではないが、受ければ最高ランクの特待生がほぼ確定という中学受験の日と重なってしまいました。どちらにしようか少し悩みましたが、今までの努力を無駄にしたくないと思い、全国大会を選びました。その後、母にジュニアの部で一位をとる宣言をして、さらに努力を積み重ねました。

その結果、見事にジュニアの部で一位をとることができました。今までの努力が報われたような気がして、とても嬉しかったです。これからも更なる高みを目指して頑張っていきたいと思います。